



〔秋田市観光クチコミ大使〕
株式会社商工組合中央金庫
ファイナンス本部 上席クレジットオフィサー

秋田の未来を考える 一人として

たか はし だい すけ
高橋 大輔 氏

私は、平成31年から令和2年のコロナ前からコロナ後という、今振り返りますと元号だけでなく世の中の移り変わりの節目に商工中金秋田支店長として在籍し、公私ともに秋田商工会議所会員企業の皆様、役職員の皆様にお世話になりました。本紙面をお借りしまして改めて御礼、感謝申し上げます。短い間の秋田在住でありましたが、今でも天気予報では無意識に秋田を見てしまい、高校野球も秋田を応援してしまうなど、離れていても秋田との“ご縁”を感じているところでございます。

現在、私は東京にあります本店のファイナンス本部という部署に在籍し全国の中小企業の皆様に対する金融支援業務に携わっています。私自身の働き方も大半がテレワークとなり、秋田で単身赴任を謳歌していた私が終日、家にいる・・・、家族が招かざるか否かは別にしまして、今までは想像もできなかった日常です。新型コロナウイルス発生から2年近く経過し経済への影響が長引くなか、全国の中小企業者の中にもアフターコロナに向けた、いわゆる新常態への適応の動きが見られ始めています。商工中金が行いました全国の中小企業を対象とした調査でも「Web会議やテレワーク等の導入による業務フローの見直し」を検討もしくは実施が50%を超え、「既存事業や商品の改善見直し」の検討もしくは実施が35%を超える回答結果となっています。それでは中小企業や地域経済における新常態はどういう姿になるのでしょうか。ネット環境が整えば首都圏で仕事をする必然性はなくなり、主役はモノを作り出す地方の現場になります。産業構造が変化すれば業界内や業界を超えた事業再構築が進み、物流も変化します。また人口減少や少子高齢化も、人口密度が低

く生活空間が広い社会（密回避）、そして多様な世代が共に助け合いながら生活する社会（ダイバーシティ）となり、果たして悲観することになるのでしょうか。ゲームチェンジがおきれば今までのマイナスはプラスになります。チェンジはピンチでなくチャンスとなります。今まで多くの秋田市観光クチコミ大使の方がおっしゃる通り秋田のポテンシャルの高さは間違いありません。そのポテンシャルと新常態をどのようにつなげていくのかが未来の活力ある秋田を考えるにあたり重要な点だと思います。

一方で、変わらないものもあります。本稿作成にあたり、久しぶりに有楽町にあります「秋田ふるさと館」に行ってみりました。美味しそうなお酒や食材など名産品を眺めていましたところ、フラッシュバックのように、大曲の花火で腹底に響く音、かすかに聞こえる深々と降る雪の音、竿灯祭りや夜空に輝く稲穂、そして何より秋田の方々との楽しい会話と笑顔が蘇りました。やはりリアルに勝るものは無いですね。私も秋田市観光クチコミ大使の一人として、そして金融機関の一職員として、未来に広がる豊かな秋田の実現に向け皆様方と一緒に取組、知恵を出し、悩み、そして応援させていただきたいと思っております。

結びになりますが、皆様の益々のご多幸、ご健勝を心よりご祈念申し上げます。

■ 略歴

- 1970年 神奈川県川崎市生まれ
- 1993年 法政大学工学部卒業
- 同年 株式会社商工組合中央金庫(商工中金) 入庫
- 2019年 同 秋田支店長
- 2020年 現職